

先週1週間はオープンスクールとして、10名が3年1組に加わり、総勢22名のクラスで学校生活を送りました。在籍児童と体験児童をペアにし、ロッカーも隣り合わせに配置して、在籍児童がサポートする形でスタートしました。在籍児童の子たちは自分のことをやっているだけでは体験の子たちが迷子になるので、いつも以上にテキパキと動いていました。また授業ではペアで協力したり、話し合いをしたりする活動を増やすことで、体験の子たちが刺激を与えることも多くありました。人数が多いと話し合いで色々な意見が出たり、行う活動の幅が広がったりするため、想像していた以上に学習面での効果が高い5日間でした。授業以外の場面でも声をかけ合ったり、一緒に遊んだりと楽しく過ごしている姿が印象的でした。終わってみると5日間は本当にあっという間で、最後のふりかえりでは、「新しい友だちができた」「いっしょに勉強したり遊んだりして楽しかった」というコメントがたくさんありました。

## 瀬戸魅力発見プロジェクト～瀬戸市役所シティプロモーション課出張授業～

8/4(水)5時間目のプロジェクトの授業では、瀬戸市役所シティプロモーション課の田中課長補佐にお越しいただき、子どもたちから出た質問にお答えいただく形で出張授業を行っていただきました。瀬戸蔵への見学後、大きく分けると市役所、瀬戸物、せとちゃん、食べ物、環境、瀬戸電の6つの種類にわたる質問が子どもたちから出たため、事前に田中さんにはその質問を送り、当日は持参いただいたプレゼントや書籍の写真を見ながらお話を伺いました。話を聞けば聞くほど、聞きたいことがどんどん増え、予定していた時間を超えるほど、みんな話に聞き入っていました。

翌日のプロジェクトの時間には、話を聞いて興味の沸いたテーマに分かれ、どんな疑問があるのか、それを知るためにはどうやって調べればいいのかについて、話し合いました。5つのテーマに分かれたため、12名だと2/3名になるグループが、22名だと4人や5人のグループになるため、ここでもオープンスクールの人数増加が起きていました。今後子どもたちから出た問いや聞きたい人、行きたい場所を活かしながらさらにプロジェクトを進めてまいります。

## 夏季休暇の過ごし方

8/6(金)で第2Q前半が終わりました。終盤はなかなか運動場には出られず、体育館で遊ぶ日が多かったですが、暑さに負けずに集中して学習に取り組んでいました。クォーター間休みとは違い、夏季休暇中の家庭学習については、取り組む優先順位をつけながら、自分が自由に組み合わせたものを記録する形で説明をしました。

唯一、必ず実施する課題としている探究については、現時点で持っている情報を、まず自分自身がしっかり理解できるまで整理をすることを重要視しています。8/6(金)の中間発表では読めない漢字や聞いている人には理解しにくい言葉をそのまま使っている子がいました。まずはそういったことについて整理をすることが大切になります。加えて、新しい情報を探すために書籍を使ったり、無理のない範囲でどこに出かけて情報収集をしたりしてもらえればと思います。保護者の皆様にはどこかに一緒に行っていただいたり、一緒に情報を探して一緒に読み解いたりする形でのサポートをお願いできればと思います。まだ探究を始めて4ヶ月のため、何かを形作ることよりも、「みつける→しらべる→まとめる→つたえる」という探究のプロセスを経験しながら、その一つ一つの方法を深めていくことが大切です。保護者の皆様には子どもたちと一緒に考えていただければと思います。

8/6（金）に子どもたちに配付した家庭学習の記録シートの裏面には、クォーター間休み同様、こどもたちによるふりかえりと、保護者の皆様からのコメント欄を作っております。クォーター間休みに提出いただいた際、保護者の皆様からのコメントから子どもたちの頑張りや課題をたくさん知ることができましたので、お忙しいところ申し訳ありませんが、今回もご協力のほどよろしくお願いいたします。

## 鈴木先生より～体育・図工・第2Q前半のふりかえり～

体育では、バランス感覚や力試しなど多様な動きを作り養う運動や跳び箱運動に挑戦をしました。児童たちは目標を達成するためにiPadで友達の動きを撮影したり、振り返りを書いたりすることでできたこととできなかったことを把握し、自身で次の目標を立てて学習に励みました。当初は「次は7段を飛びたい！」などという目標を立てていたのですが、次第に「7段を飛ぶために〇〇に気をつける！」などととても具体的に目標を立てて学習に取り組んでいました。図工では、作った作品を持ち帰るための手さげバッグと夏の到来を感じる7月のイメージを膨らませて、そのイメージにあった景色をSOLANで見つけ写実的に水彩画で表現をする学習に取り組みました。「見たままに表現する」ということは想像以上に難しいのですが、児童たちは一回に90分もある授業をものすごく真剣に集中して作品に取り組んでいました。そしてなにより、この第2クォーター前半を終えて、私は児童たちの確実にできることが増えていることを強く感じています。たとえば、思考ツールで何を使えばいいかと聞くとすぐに「こうしたらいい」と提案しかえしてくれます。他にも様々な「問題」に対する解決への筋道を立てて、活動に向かっている姿をよく見ます。また、最終週は体験の子どもたちを積極的に手伝おうとしてくれて、本当に頼もしいと感心する毎日でした。第2クォーターの後半も、子どもたちが自分たちのペースを大切にしつつ楽しんでくれるようにサポートをしていきたいと思っています。

## 藪田先生より～言語・数・国語～

子どもたちとは言語・数、国語、体育、図工の授業で関わっています。

言語の時間では、超高速音読と漢字の学習をテンポよく行っています。音読はスラスラ・ハキハキと読むことが大事です。言葉がつまらないように、正しく読もうと努力する姿が見られました。朝から声を出すことで脳が活性化されます。今後も続けて基礎の力を高めていきたいと思っています。

数の時間では、2Qから新たに百マス計算を導入しました。一心不乱に問題を解く様子から短い時間での集中力の高まりを感じています。問題に慣れてきたころにパターンを変えています。みんな前回の自分自身を超えようと頑張っています。1Qから続けている九九マスターを自ら宿題として選んで取り組んでいる子もいます。「継続は力なり」です。今後も地道な努力を大切にしてほしいです。

国語では物語文を読んで、登場人物の心のうつりかわりを心情曲線に表しました。微妙な心の動きを線で表現することができている子が多くいました。図書の時間では、特に「友達」をテーマとした絵本の読み聞かせをしました。友達についてのイメージマップを広げたり、友達のよいところをメッセージカードに書いて送り合ったりしました。

さあ、SOLANでの生活にもかなり慣れてきたころかと思っています。自分の人生の主人公は自分自身。2Q後半も大いに自身を磨いてほしいと考えています。